

外国人入国制限で立上げはどう変わるか

イナバゴム株式会社

執行役員
東京支店支店長
藤村忠幸氏



チャイナプラスワンで進出 入国できない代表者2名

ダナンハイテクパークにあるロンハウダナンハイテクパークレンタル工場。ロンハウ株式会社により開発された、総面積約30haのレンタル工場だ。第1期として日系企業2社が入居したばかりで、その1社がイナバゴム株式会社のInaba Rubber Vietnamだ。

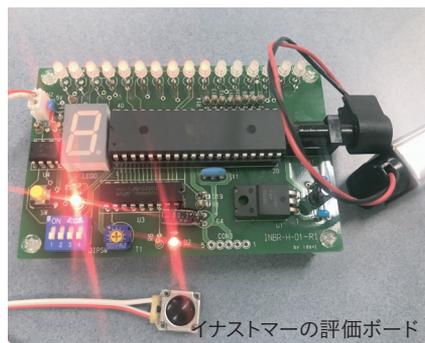
イナバゴムはペンタブレットや自律型ロボットなどに幅広く利用されている、感圧導電性センサーの「イナストマー」をはじめ、ゴムを利用した高精度な部品を開発・販売している。中国に2つの工場を持ち、東南アジアへの市場拡大を狙って5年前にタイに営業拠点を設立。生産拠点としてベトナムを選んだ。



感圧導電性センサー「イナストマー」

「何社かのお客様がハノイとホーチミンの両方に進出しており、どちらもサポートできるようにダナンに決めました。ハイテクパークにも興味があり、ロンハウさんなら安心して任せられると思いました」

昨年12月に投資ライセンス、今年4月には新型コロナ禍だったがビジネスライセンスを取得。代行したのはロンハウ社で、奥倉敏夫マネジャーはこう語る。



イナストマーの評価ボード

「印鑑をお預かりしていました。ダナンハイテクパーク管理委員会に対して、シリコンゴムの内容から、イナバゴムさんの技術力の高さやベトナムへのメリット、省人化や環境安全性などを翻訳して説明しました」

建屋も完成し、これからという時に外国人の入国制限にぶつかった。藤村氏を含む代表2人のベトナム入国ができなくなったのだ。

工場稼働は早く10月 できる限りをリモートで

敷地面積は3864㎡。生産規模は中国の2工場と同程度で、最終的には月産で1億円程度が目標。環境と

消防のライセンスを取得し、日本などから設備や機械を運ぶ予定で、原材料輸入の目途も立っていた。

「工場の稼働予定は6～7月でしたが、今は良くて10月と見えています。電子部品、車載用部品、住宅設備関連部品などを作る予定ですが、製品を改めて考えているところです」

管理職として内定を出したベトナム人がおり、彼とリモートでやり取りする他、ロンハウ社やコンサルティング会社、取引先などにもサポートしてもらっている。環境影響評価(EIA)など諸々の手続きや原材料の輸入など、全体的なスケジュールが見直しになり、従業員の雇用もストップした。今後はコンサル会社などに募集を依頼して、Webでの面接も想定している。「懸念事項は見通しが見つからないこと。銀行とはネットでやり取りし、申請書や契約書は郵送、ベトナムとはWebで打合せと、できる限りリモートで進めていきます」

ハイテクパークへの入居は審査が厳しい。同社はそれを知らずに応募し、情報を集めながら対応を続け、約1年半を掛けて承認を得た。有望な日系企業のベトナムでの活躍を応援したい。



Inaba Rubber Vietnamのレンタル工場